



# 医学部だより

第48号

2024.4.1



## ようこそ徳島大学医学部へ ～徳島大学医学部は倫理委員会発祥の地～

医学部長 西岡 安彦

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。長かった受験勉強を無事乗り越え、徳島大学医学部での大学生活に夢を膨らませていることと思います。

徳島大学医学部は昭和18(1943)年に「徳島県立徳島医学専門学校」として設立され、昭和24(1949)年には四国で初めての国立大学医学部となり、令和5(2023)年に創立80周年を迎えました。徳島大学医学部の基礎 A 棟前には初代学長・医学部長を務められました中田篤郎博士の碑があり、「学者如登山」の書が刻まれています。「学べば学ぶほど山に登るように視野・見識が広がっていく」という意味です。ぜひ一度足を運んでいただき医学部創設時に思いを馳せるとともに、徳島大学医学部で学ぶ決意を新たにしていいただければと思います。

昭和39(1964)年に医学部栄養学科(現在の医科栄養学科)が、平成13(2001)年に徳島大学医療技術短期大学部を改組して医学部保健学科が設置され、徳島大学医学部は3学科の体制で教育、研究に取り組んでいます。

さて令和5(2023)年は徳島大学医学部創立80周年であるとともに、徳島大学医学部倫理委員会設置40周年でもありました。令和6年1月8日に産婦人科学分野主催で「徳島大学における倫理委員会設置および体外受精開始40周年記念講演会」が行われました。その理由は、医学部倫理委員会の発足には産婦人科学分野による体外受精開始と密接な関連があったからです。昭和53(1978)年に英国で世界初の体外受精児が誕生し、日本においても1970年代半ばから数大学の産婦人科学教室が体外受精の臨床応用に向けた研究にしのぎを削っていました。その一つが徳島大学でしたが、当時の産婦人科学講座の森 崇英教授の手記に以下のような記載が残っています。「私が従来のヒポクラテスの倫理で率直に臨床応用に踏み切れなかった理由は2つあ

る。1つは心臓移植についての苦い経験である。もし体外受精の第1例で躓くとこの医療技術の導入は20年遅れるであろう。心臓移植の二の舞になることだけは何としても避けなければならない。もう1点は異常児が誕生した場合の対応である。……そこで手続論としてフェイルセーフ・システムが決定的に重要であることを認識し、いくつかの選択肢を考えた。……④施設単位の委員会方式。医学部内に何らかの審査機構を設けそのお墨付きを得て実施する。それを徳島大学方式と考えていた。」他大学が臨床応用を急ぐ中、森教授は「神の手のような技術に潜在する倫理的側面の重要性」に配慮した対応を提案され、昭和57年12月10日徳島大学医学部に日本で初めての倫理委員会が設置されました。森教授から提出された「ヒト体外受精卵子宮内胚移植法」について実に11回の倫理委員会が開催され、昭和58年4月12日に「条件付き許可」の結論が出されました。体外受精は昭和58年5月に開始され、昭和59年3月に母体症例にして本邦3例目として無事出産されました。当時の報道では、「社会的に認知された第1例」と高く評価されたようです。

その後、倫理委員会は徐々に全国の大学、病院に定着してきましたが、このような経緯から徳島大学医学部の果たした役割は大きく、医の倫理における主観主義から客観主義への転換の契機となったと言われています。

本講演会では改めて私たちの大先輩が成し遂げた偉業に感銘を受けるとともに、徳島大学医学部の誇りとして記憶に留め、しっかりと後世に伝えていきたいと感じた次第です。

新入生の皆さんはこのような伝統のある医学部で学ぶことに自信と誇りを持って学修に励んでください。皆さんが、この徳島大学医学部で有意義な学生生活を送り、次世代の医療界を支える医療人へと成長していくことを心から願っています。

### 目次

### CONTENTS

巻頭言	1	蔵本祭開催報告	10
新入生の皆様へ	2	留学体験記	11
先輩から医学部紹介	4	第57回全日本医科学生総合体育大会	
学友会活動	5	徳島大学医学部弓道部 団体戦優勝	12
医学部行事予定	5	退職者ご挨拶	12
第110回日本消化器病学会総会の開催について	6	新任教員ご挨拶	13
令和6年度全国学会・学術集会情報	6	数字で見る医学部	14
第60回「ベルツ賞」1等賞の受賞報告	7	白衣授与・臨床実習生(医学)認定証授与式	15
医学部創立80周年記念式典等の開催報告について	8	受賞者紹介(教員)	15
徳島医学会報告	9	受賞者紹介(学生)	16
第70回徳島大学解剖体慰霊祭	9	編集後記	16



## 医学科新入生の皆様へ

医学科長 橋本 一郎

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。難関の受験を突破して晴れて本学の医学生として大学生活を始めると心にからのお祝いを申し上げます。コロナ禍において学習環境が整わ

ない中での受験勉強は大変だったでしょう。新入生の皆様には完全にもとに戻った学生生活を満喫して欲しいと思います。

医学科の教育課程は、基礎医学教育と臨床医学教育に大きく分かれます。内科や外科といった診療や医療について学ぶのが臨床医学教育です。この臨床医学を学ぶ上で非常に大切なのが基礎医学であり、医師が他の医療関係者と比べて大きく違うのが、この基礎医学に関する知識の深さです。基礎医学は医学に関わる限り、各自のバックボーンになるものです。十分に学習してください。本学医学科では、基礎医学と臨床医学に関して

講義室での授業だけでなく、様々な工夫をして学習補助を行っています。希望者は研究サークル活動であるLab部で基礎医学研究が可能で、MD- PhD コースに進学して卒業前に医学博士を取得することもできます。医学研究実習では好きな研究室を選んで医学研究を行います。臨床医学に進むと、症例シナリオを使用して自己決定型学習を行うPBLチュートリアルや充実した臨床実習を用意しています。再開された短期留学プログラムにもぜひ挑戦してください。

医学生にとって、医学学習は最も大切なことですが、大学時代は人間性を形成するのに重要な時期でもあります。クラブ活動やサークル活動を行ったり、趣味を深めたり、また新しいことに挑戦するのも良いでしょう。無限の可能性を秘めた皆様の過ごす6年間が、有意義であることを心から願っております。



## 医科栄養学科新入生の皆様へ

医科栄養学科長 高橋 章

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これからの大学生活に期待と不安が入り混じった状態だと思えます。厳しい受験生活を乗り越えてこられた皆様ですので、これから困難に出

合ったとしても十分に乗り越えて行けると信じています。新年度からは、コロナ禍による行動制限が終わり、これまで通りの“普通”の大学生活を送ることができると思えます。存分に大学生活を楽しんでください。

日本は世界一の健康長寿を維持できる国として認められるようになりました。しかしながら、高齢社会の進行や食のグローバル化の波が世界中に押し寄せていることで、我が国において

も、様々な新しい問題に目を向ける必要が出てきました。このような社会ニーズに対応できる管理栄養士となるには、医学、保健学、看護学、薬学、歯学、そして社会学、経営学等を身につける事が必要とされています。本学科は大学病院や医療関連学部および研究センターが集中した蔵本キャンパスにあるという立地条件を生かし、疾病の予防から治療まで医学に基づいた最新の栄養学を学べる恵まれた環境にあります。同時に、医科栄養学科では教員が一丸となって、時代のニーズを満たす人材育成に取り組んでいます。

新入生の皆様全員が将来は栄養学分野のリーダーをめざして、知力、体力そして人間力を大いに鍛え、大きく飛躍することを願っています。



## 保健学科新入生の皆様へ

保健学科長 森 健治

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。保健学科の教員ならびに在校生一同、ご入学を心よりお慶び申し上げます。COVID-19が5類に移行した後も、皆さんを取り巻く環境におい

ては、天災等色々な困難が生じておりますが、皆さんの学生生活が安心で、より充実したものとなるように、教員一同心を尽くしてサポートしていきたいと考えております。少しでも不安なことがありましたら、気軽にご相談ください。

保健学科は、徳島大学病院の隣に位置しており、実習においても、ほとんど大学病院を中心にして行われます。高度な医療の実践の場を間近で見聞きし、経験することにより、医療人と

して生きていくための意欲が刺激されることと思います。また、この蔵本キャンパスには、医学部、歯学部、薬学部の医療系3学部が集まっています。医学部には、医学科、医科栄養学科、保健学科の3学科があり、保健学科内には、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3専攻があります。これらの学内他部局との共同教育の推進により、将来医療に携わる人間として、チーム医療・多職種協働に貢献できる人材を育てることを目標に掲げています。学業のみならず、サークル活動などを通して、他学部の人と交流することで、人間関係力を構築していくことも大切なことであるといえます。新しい学生生活がもうすぐそこに。私たちは、皆様の明るい未来をより良いものにできるように応援していきたいと思っています。

## 新入生の皆さんへ



医学科4年次 山本 芽衣

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからの生活に思いを馳せ、胸を躍らせていることと思います。環境の変化に不安を抱えている方もいらっしゃるかもしれませんね。

大学生活では、将来必要となる専門的な知識や技術を学ぶだけでなく、研究をはじめ、他の学問、趣味やアルバイト、部活動やサークル活動など、さまざまなことに挑戦できます。高校生の時までの生活と比べて、多くのことに挑戦する機会がありますが、それらに実際に取り組むかどうかは皆さん次第です。私自身、大学生になってから、より自由な時間が増えたように思います。そうはいつても、時間は、すぐに過ぎていってしまいます。挑戦したいと思ったことに関して、自らアンテナを張って情報を入手し、どんどん挑戦していきましょう。

また、その生活の中での新たな出会いを大切にしてください。大学内外を問わず、多くの人に会うことでしょ。年齢層も、会うまでに過ごしてきた場所もさまざまです。そうした人々との出会いの中で、影響を受け、新たに挑戦したいと思うことが出てくることもあるかもしれません。後悔することがないよう、今まで挑戦しなかったけれどもできなかったこと、新たに挑戦したいと思ったことに全力で取り組んでほしいと思います。その経験が、今後の皆さんの考え方や行動にも影響してくるような大切なピースとなるはずですよ。一度きりの大学生活が充実したものになることを願っております。



医科栄養学科4年次 濱本 優里

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

大学では環境や生活が大きく変わり、期待と共に不安も感じていることと思います。一方、これから自由な時間が増えると共に責任も伴い、大人への第一歩を

踏み出すこととなります。大学生というまだまだ若く、フレッシュなイメージがある一方で、大人としての自覚が必要となってくる時期です。そのため、ぜひ理想の大学生とは別に理想の大人像について考え、成長できる大学生活としてもらいたいです。誰しも同じように歳をとり、「大人」と言われる歳となります。年齢的には大人であっても、大人な言動をできていない人は世の中にたくさんいます。「大人」とは人の気持ちや物事の善悪を理解し、分別のある言動ができる人のことだと思います。その言葉を言うことで誰かを傷つけていないのか、言う必要があることかを考えて言動できる、それが大人になるということだと思います。急に大人になることは誰もできません。まずは自分の言動を見直す事から始め、失敗しながら学んでいくことが重要です。そのためにも他の人の助言には耳を傾け、素直に聞き入れなければなりません。言っても聞き入れられないと思われてしまえば何も助言をされなくなります。何も注意されなくなった時は成長が止まる時だと思います。相手の話をよく聞き、素直に受け入れることが大人になるためにとっても重要なことです。

これからいろんな体験をし、いろんな環境の人と出会い、いろんな自分を見つけて理想の大人に近づけるように大学生活を存分に楽しんでください。

保健学科看護学専攻4年次  
横井 舞子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから新しい出会いや生活、看護を含めた学びの始まりが待っていますね。

本専攻の講義や実習では、個々の意見を共有することや、1つの事象について考察する機会が多くあります。私自身、その中で「人の数だけ、これまでの経験や価値観がある」ということを実感しました。おかれた状況に、どのような対応をとるか困惑することもあるかもしれません。しかし、自分と異なる価値観に触れることで、新たな刺激を受け、貴重な経験を重ねる機会になると考えています。さらに、学生同士で支えあう力や思考力を培うことにも繋がります。私も修行中の身です。学業や部活動、ボランティアなど何事にも恐れずに挑戦し、経験をもとに共に成長していきましょう。

体調に留意し、皆さんが充実した大学生活を送られますよう、心よりお祈りします。

保健学科放射線技術科学専攻4年次  
柏 大成

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。長く厳しい大学受験、本当にお疲れさまでした。本専攻では、1年時に一般教養と専門科目を学び、学年が上がるにつれ専門科目と実習が主となっ

てきます。大学では、高校とは違い自由な時間がとても増えます。この自由な時間を有意義に使うため、勉強、部活、サークル、アルバイト等大学生の時にしかできないこと、自分がやりたいと思ったことはすぐに挑戦し、充実した大学生活を送ってほしいと思います。最初は初めてのことでわからないことが多くあるかもしれませんが、大学には支えてくれる先生や先輩がたくさんいます。わからないことや不安なことがあれば、どんどん聞いてください。

皆さんの大学生活が充実したものになりますように心から祈っています。

保健学科検査技術科学専攻4年次  
市川 乃愛

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に期待と不安を抱いておられることと思います。私自身も入学前は楽しみと不安が入り混じっていました。大学は高校の時と

比べ自由な時間が増えていき、自分の行動次第でどんなものにも変えていくことができる場所です。失敗を恐れずに自分の心躍るものに積極的に挑戦して欲しいと思います。

検査技術科学専攻では、1年生は教養教育科目と専門教育科目、2年から3年の前期にかけては専門教育科目の講義、3年の後期から校内実習が始まり、4年では病院実習や卒業研究があります。学年があがるにつれて忙しくなり、求められる医学的知識・専門性も高くなりますが、その分充実した毎日を送ることができると思います。

まずは1ヶ月、そして1年間。「最大限にやりきった！」と言える時間を過ごして欲しいと思います。大学生活の4年間で新しいことへの挑戦や、多くの人との出会いを経験し、充実した日々を過ごしてください。実りある大学生活を送られますことを願っております。



# 先輩から医学部紹介

🌸🌸🌸 新入生のみなさんご入学おめでとうございます 🌸🌸🌸

## 講義について

医学科4年次 岡久凜香

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私からは大学での講義、主に1年生の講義についてご紹介させていただきます。

大学の講義の科目には「教養科目」と「専門科目」の2種類があり、1年生では教養科目を中心に受講することになります。教養科目では、「歴史と文化」「生活と社会」「グローバル科目」といったテーマで分けられている講義の中から自分の興味のあるものを選択して受講することができます。語学に関しては、英語だけでなく第二外国語も中国語・ドイツ語・フランス語の中から一つ選択し学習します。また、専門科目の学習へと繋げるための基礎基盤教育科目も同時に受講し、高校で履修していない科目についても学びます。基礎基盤教育科目（医学科1年では基礎生物学・生化学入門など）は2年生以降の専門科目の基礎となる内容ばかりですので、特に力を入れて取り組むことをお勧めします。

最後に学生生活についてですが、大学生活は高校生活に比べて圧倒的に自由で、より自分で時間の使い方を決めることができるようになります。一度きりの大学生活なので、学業と課外活動をうまく両立してたくさんのご経験し、人間



講義室の風景

の幅をぜひ広げていってほしいと思います。大学を卒業して社会人になったときに後悔のない最高の学生生活だったと胸を張って言えるように、最善の選択をしていきましょう。皆さんのご活躍をお祈りしています。

## 部活動・サークル活動について

医科栄養学科4年次 芝田千晶

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私からは部活動・サークル活動について紹介します。

徳島大学の2つのどちらのキャンパスにも、たくさんの部・サークルがあります。自身が通うキャンパスの団体にしか所属できないといった決まりはないため、医学部の学生も常三島地区の団体に所属・参加することができます。

私は現在、蔵本地区の運動部に所属しており、他学部の先輩や後輩そして同期など、この部に所属して出会った仲間との活動を通して、刺激的な日々を送ることができています。またインカレ等に参加するのも、大学生ならではの経験であると思います。私は東京の大学に所属する学生団体にも参加しており、全国にも大切な仲間ができました。コロナ禍を経て、主にオンラインで活動する団体も増えたため、他大学を

本拠地とする団体を探してみても楽しいかもしれません。

ここで、私がみなさんに最もお伝えしたいのは、課外活動で何をしたいのか、を大切にしてほしいということです。目的は人それぞれであるでしょうし、部・サークル活動だけでなく、バイトや趣味を頑張りたいという人もいます。しかし、大学生生活は想像以上に短いです。その中で悔いが残らぬように、ぜひ何か目標を持ってたくさん挑戦し続けてください。

そして、興味のある団体を見つけるためには、ぜひ新歓イベントに参加してほしいです。チラシやSNSだけでなく、実際に雰囲気などを感じることを推奨します。

新しい生活が始まり、楽しみよりも不安が大きいとは思いますが、新入生のみなさんの大学生活が実り多きものとなるように祈っています。



試合前の円陣の様子



主にオンラインで活動するサークルでの、対面イベントの様子

## 大学生協について

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私からは、大学生協について紹介させていただきます。

徳島大学蔵本キャンパスには、本や文房具を取り扱う「SHOKO-LA (しょこら)」、カフェテリアの「KURA-LA (くらら)」、コンビニの「LUCK-LA (らくら)」、そして食堂の「キッチンSAKU-LA (さくら)」の四店舗が大学生協運営の店舗としてあります。「くらら」は医学基礎A棟1階医学部学務課前に、ほかの3つの店舗は蔵本会館1階に位置しています。



しょこら、らくら、さくらのある蔵本会館1階前

保健学科放射線技術科学専攻4年次 舞鶴大貴

「しょこら」では、授業や実習等に必要な教科書や白衣を購入することができます。特に、教科書については大学生協の組合員証により割引で購入することができます。

「らくら」では、様々な種類のお菓子やジュース、お弁当があります。食堂の横に位置するので、ご飯後のおやつやジュースを買ったり、授業や実習等でゆっくりご飯を食べる余裕がないときにささっと食べられるものを買入したりするときに利用しています。

「くらら」では、多種類のあたたかいお弁当やサラダ、おやつ、お弁当にもう一品できる小さなおかず等があります。

最後に食堂の「さくら」では、美味しくあたたかいご飯がいつでもすぐ食べられます。また、毎日通っても飽きないようにアジアフェア、北海道フェアのようなフェアが毎月開催されます。「さくら」にはたくさんのメニューがあるため、皆さんにもお気に入りのメニューが見つかると思うのでぜひ行ってみてください。



さくらのメニュー例

## 学友会活動

### ●運動部

	クラブ名	助言・指導教員		クラブ名	助言・指導教員
1	水上競技部(男女)	内田 貴之	10	バスケットボール部(男女)	楠原 義人
2	弓道部(男女)	秦 広樹	11	合気道部(男女)	岩佐 武
3	硬式野球部	橋本 一郎	12	硬式庭球部(男女)	高木 康志
4	柔道部	和泉 唯信	13	軟式庭球部(男女)	森 健治
5	空手道部(男女)	和泉 唯信	14	陸上競技部(男女)	米村 重信
6	卓球部(男女)	西岡 安彦	15	準硬式野球部	島田 光生
7	バドミントン部(男女)	西岡 安彦	16	ラグビー部	田中 克哉
8	サッカー部	高橋 章	17	剣道部(男女)	久保 宣明
9	ゴルフ部(男女)	橋本 一郎	18	バレーボール部(男女)	岡久 稔也

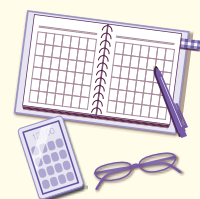
### ●文化部

	クラブ名	助言・指導教員
1	軽音楽部	橋本 一郎
2	茶道部	竹谷 豊
3	地域医療研究会	八木 秀介
4	栄養学研究部	酒井 徹
5	外国語研究会	西良 浩一
6	室内楽同好会	赤池 雅史
7	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	赤池 雅史
8	先端医療研究会	佐田 政隆
9	IAHSS(保健学科国際交流サークル)	岡久 玲子

※入部等のお問合せについては、医学部学務課学生係(☎088-633-7982)へご連絡ください。

### 医学部行事予定 (令和6年4月～令和6年9月) ※変更となる可能性があります

4月1日(月)～9日(火)	4月実施	遺骨返還・感謝状贈呈式
医学部新入生オリエンテーション (医学科、医科栄養学科、保健学科)	8月～(予定)	西日本医科学生総合体育大会 (代表主管校：川崎医科大学)
4月8日(月)～24日(水)	8月実施	徳島大学オープンキャンパス (学部説明会)
学生定期健康診断		
4月10日(水)		
新入生授業開始 (医学科、医科栄養学科、保健学科)		



# 第110回日本消化器病学会総会の開催について

消化器内科学分野 高山 哲治

この度、第110回日本消化器病学会総会を2024年5月9日(木)～11日(土)の3日間、徳島市のアスティとくしまと徳島文理大学にて開催させて頂くことになりました。日本消化器病学会は1898年に創設された伝統のある学会であり、会員数は約35,000人以上おります。この歴史と伝統のある日本消化器病学会の第110回総会会長を拝命し、大変光栄に存じております。本学会は毎年春に総会(年1回)を開催してきましたが、1959年から秋に大会を開催するようになり、その後秋の大会は日本消化器病学会週間(JDDW)の一環として開催されるようになりました。徳島では、55年前の1969年(昭和44年)秋に徳島大学第1外科 田北周平教授を会長として大会を開催いたしました。それ以来55年ぶりの日本消化器病学会であり、総会の開催は初めてであります。また、私の所属する消化器内科学(旧第二内科)が開催するのも初めてであり、身の引き締まる思いで準備を進めております。

本総会のメインテーマは、「トランスレーショナル・リサーチが切り開く新しい消化器病学」と致しました。周知の通り、医学の発展は、臨床医が臨床現場で抱く疑問(クリニカルクエスト)をきっかけに研究が開始されることが多いと思います。その疑問点を解決するために、臨床検体を採取して解析を行うとともに、得られたデータから新しい治療薬を推定(新機を作製)し、in vitro でそれらの有効性を検証します。次いで、動物実験を行い、最終的にヒト臨床試験により有効性と安全性を確かめて承認が得られます。われわれ臨床医が行うこのような研究は、臨床に翻訳される研究(トランスレーショナル・リサーチ)として、その重要性はますます高まっております。

本総会では特別講演3題、特別企画として「AIを用いた消化器診療はどこまで進んだのか?」などを予定しております。国際セッションでは、「消化器領域における前癌病変/状態と癌予防」をテーマと致しました。また、シンポジウム14題、パネルディスカッション14題、ワークショップ14題の合計42題の主題セッション、並びに一般演題を予定しております。

昨年5月にCOVID-19が5類に指定されて以降、ほぼCOVID-19

も取りつつあると思われますので、現地参加可能な先生方には現地に来て頂き、久しぶりに対面で熱いディスカッションをして頂ければと思います。教室をあげて本総会に参集する先生方を歓迎したいと考えております。

第110回日本消化器病学会総会の企画・プログラム作成におきましては、同学会役員、学会関係者、ならびに徳島県観光協会の方々大変お世話になりました。また、徳島文理大学の一部を会場として利用することをご快諾頂いた同大学の関係者に厚く御礼を申し上げます。さらに、同門の先生方、教室の事務局長(岡本耕一講師)、教室員、技術・教務補佐員の方々に厚く御礼を申し上げます。



## 令和6年度全国学会・学術集会情報



会議名	会長名	分野名	開催日程	開催場所
第18回日本統合失調症学会	沼田 周助	精神医学分野	令和6年4月13日(土) ～4月14日(日)	徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂他
第110回日本消化器病学会総会	高山 哲治	消化器内科学分野	令和6年5月9日(木) ～5月11日(土)	アスティとくしま・ 徳島文理大学
第45回日本循環制御医学会総会・学術集会	田中 克哉	麻酔・疼痛治療医学分野	令和6年6月28日(金) ～6月29日(土)	あわぎんホール
第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	佐田 政隆	循環器内科学分野	令和6年7月13日(土) ～7月14日(日)	神戸国際展示場・ 神戸国際会議場
第32回日本 Cell Death 学会学術集会	安友 康二	生体防御医学分野	令和6年7月20日(土) ～7月21日(日)	徳島大学蔵本キャンパス 藤井節郎記念ホール
第31回日本がん予防学会総会	高山 哲治	消化器内科学分野	令和6年9月6日(金) ～9月7日(土)	徳島県医師会館
第22回日本臨床腫瘍学会学術集会	高山 哲治	消化器内科学分野	令和7年3月6日(木) ～3月8日(土)	神戸国際会議場

# 第60回「ベルツ賞」1等賞の受賞報告

## 受賞論文

### 「肺線維症に対する抗線維化薬開発： がんと線維化肺の接点を捉えたトランスレーショナルリサーチ」

呼吸器・膠原病内科学分野教授、医学部長 西岡安彦

この度、第60回「ベルツ賞」1等賞を受賞いたしました。22年間にわたるこの研究と一緒に取り組んでいただきました大学院生、スタッフ、共同研究者ならびに研究費を助成いただき研究を支えていただきました方々に心より御礼申し上げます。

贈呈式は、令和5年12月1日に東京都港区のドイツ連邦共和国大使館にあるドイツ大使公邸（旧小泉策太郎邸）で在日ドイツ連邦共和国大使ご夫妻を始め、バーリンガーインゲルハイム社のシニアアドバイザー、ディージェズマップのフローリアン・ガントナー氏、会長兼社長のヤンシュテファン・シェルド氏、選考委員会委員（常任委員、専門委員）の先生方など多数の参加者の下、開催されました。

「ベルツ賞」（正式名称：エルウィン・フォン・ベルツ賞）は、1964年にバーリンガーインゲルハイム社が日独両国の歴史的な医学領域での交流を回顧し、その交流関係を更に深めていく目的で、日本の近代医学の発展に大きな功績を残したドイツ人医師エルウィン・フォン・ベルツ博士の名を冠して設立した権威ある医学賞です。ベルツ博士は、明治9年から約30年近く東京大学医学部の前身である東京医学校で教鞭を執られ、数多くの優れた日本人医学者を育てると共に皇室の侍史を務められました。

「ベルツ賞」はノーベル賞のような他の医学賞とは異なり、毎回時宜に応じたテーマを設定してレビュー形式の研究論文を募集し、選考委員会により1等賞と2等賞が選考される医学賞です。記念となる第60回は「間質性肺疾患」をテーマに募集され、12編の論文の中から私の論文「肺線維症に対する抗線維化薬開発：がんと線維化肺の接点を捉えたトランスレーショナルリ

サーチ」(Development of antifibrotic drugs against pulmonary fibrosis: translational research focusing on the interface between cancer and fibrotic lungs) が1等賞に選ばれました。

応募論文は、私が22年間取り組んできた間質性肺炎に対する抗線維化薬開発研究をまとめた内容です。研究を始めた当初、臨床現場に登場し始めたがんの分子標的治療薬をヒントに、血小板由来増殖因子 (platelet-derived growth factor: PDGF) に着目し、PDGF 受容体阻害を主軸とした抗線維化薬開発の可能性を報告しました。その後登場した PDGF 受容体阻害薬を用いて、さらに臨床効果の高い抗線維化薬としてのキナーゼ阻害プロファイルを決定し、大鵬薬品工業株式会社との共同研究により新規抗線維化薬 TAS-115を見出し、臨床治験を進めています。既存の抗線維化薬を内服中にもかかわらず進行している特発性肺線維症 (idiopathic pulmonary fibrosis: IPF) 患者を対象に実施した早期第II相試験で高い治療効果が示唆され、後期第II相試験として無作為化2重盲検比較試験を進めています。また、基礎研究として線維細胞と呼ばれるユニークな細胞に着目し、その実態解明に取り組み、機能的には肺線維化における役割を解明すると共に、トランスレーショナルリサーチとして新規抗体医薬の開発を進めています。このような研究成果を基礎研究ならびに臨床研究の視点からそれぞれ高く評価いただきました。選考いただきました論文は、対象となる業績とともに「医学のあゆみ」第288巻・第2号148～161ページに掲載されております。ぜひ一度ご覧いただけますと幸いです。改めまして、これまでの共同研究者に心より御礼を申し上げ、受賞の報告とさせていただきます。



# 医学部創立80周年記念式典等の開催報告について

医学部長 西岡安彦

令和6年2月18日(日)、徳島グランヴィリオホテルにて徳島大学医学部創立80周年記念式典、記念講演会、記念祝賀会を挙行了いたしました。当日は天候にも恵まれ一足早い春を感じさせる日差しが降り注ぐ中、午前10時からの記念式典では、学部長式辞、学長挨拶に続き、ご来賓の俵 幸嗣文部科学省高等教育局医学教育課長、後藤田正純徳島県知事からご祝辞をいただきました。

記念講演会では、特別講演1として徳島大学医学部医学科第29期の上田夏生香川大学学長から「大学人としての歩みとこれからの大学」、特別講演2として徳島大学医学部医学科第36期の安友康二徳島大学副理事、生体防御医学分野教授から「徳島大学医学部で拓くサイエンス」と題してご講演をいただきました。上田学長からは、徳島大学医学部生化学講座時代が切欠で始まり、留学を経て教授として赴任した香川大学生化学講座でのカンナビド受容体研究へと続く脂質代謝研究について紹介いただくとともに、大学人として歩んでこられた香川大学医学部長や学長の視点から、今後の地方大学の課題と展望をご講演いただきました。安友副理事からは、これまで一貫して取り組んでこられた免疫系の維持・破綻機構に関する研究の2本柱「免疫難病の原因・病態研究」と「T細胞の分化調節機構に関する研究」の成果と展望についてご講演いただきました。

記念祝賀会は、赤池雅史医歯薬学研究部長のご挨拶に続き、齋藤義郎徳島県医師会長、北畑 洋徳島県病院事業管理者、中村丁次公益財団法人日本栄養士会代表理事会長から来賓祝辞をいただき、香美祥二徳島大学病院長の乾杯のご発声で始まりました。約100名の方々にご参加いただきました祝宴は、橋本一郎医学科長、二川 健医科栄養学科長、森 健治保健学科長による学科紹介や、荒瀬誠治青藍会会長、津田とみ栄友会会長、久米博子睦眉会会長のスピーチで80年の歳月を懐かしく振り返ると共に、徳島大学栄養学連の素晴らしい阿波踊りで大いに盛り上がりました。

50周年以来となる実に30年ぶりの医学部周年記念会でしたが、たくさんの方々のご尽力ならびにご参加で、100周年に向けて大きなステップとなる盛大な中にも引き締まった80周年記念会が開催できましたことに対し、医学部長から御礼を申し上げ、閉会となりました。

同時に80周年記念事業として完成した記念誌「徳島大学医学部80年史」と進行中の教育・研究・学生支援事業についても簡単に触れさせていただきました。

全く白紙の段階から準備、運営にご協力いただきました蔵本事務部の方々には心より御礼を申し上げ開催報告とさせていただきます。



記念式典



記念式典での医学部長式辞



祝賀会での  
栄養学連による阿波踊り



記念講演会



記念祝賀会



# 徳島医学会報告

## ■ 第268回徳島医学会学術集会(令和5年度冬期)

第268回徳島医学会学術集会は、令和6年3月10日に徳島大学蔵本キャンパスの大塚講堂を主会場として開催されました。コロナ禍の時期にはオンラインでの開催が行われていましたが、久しぶりの現地開催となった本学術集會を徳島大学医学部からは微生物病原学分野と放射線医学分野が担当し、徳島県医師会生涯教育委員会と共同して開催することができました。

3名の新任教授による教授就任記念講演では、応用栄養学分野の瀬川博子教授からは「生体内リン恒常性と疾患－分子同定・生理学的役割解明から治療ターゲットへの可能性の発掘へ」、胸部・内分泌・腫瘍外科学分野の滝沢宏光教授からは「肺癌外科治療の課題解決を目指して」、精神医学分野の沼田周助教授からは「統合失調症のエピジェネティクス研究」というタイトルでご講演いただきました。続いて西岡安彦徳島医学会会長及び齋藤義郎県医師会会長の挨拶の後に第51回徳島医学会賞の授与式、その後、徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器・移植外科学分野の和田佑馬先生より「消化器癌における診断マーカーの臨床的有用性」、徳島県立海部病院脳神経外科の影治照喜先生からは「徳島県立海部病院における医療格差是正と医師働き方改革のための遠隔医療～遠隔救急診療と5G遠隔オンライン診療～」と題した受賞記念講演が行われました。

ポスターセッションでは、一般演題と若手演題合わせて31

微生物病原学分野 教授 野間口 雅子  
放射線医学分野 教授 原 田 雅 史

演題と多くの発表がありました。それぞれのポスター前では口頭での発表や討議が行われ、コロナ禍以前当たり前に見られた対面で活発な意見交換をする光景が復活している様子が見られました。

市民公開シンポジウムは「感染症の診断と制御」というテーマで、徳島県医師会常任理事の吉岡一夫先生、本学微生物病原学分野の駒貴明先生、本学病院呼吸器・膠原病内科の阿部あかね先生、本学病院放射線診断科の新家崇義先生、本学病院放射線治療科の外磯千智先生による講演が行われ、徳島県でのコロナ禍での感染症診療や、ウイルス感染症の基礎医学的な検討および画像診断、コロナ禍での放射線治療の取り組み等多岐にわたるテーマについて理解を深めることができ、会場の参加者も含めて活発な討議が行われました。

今回は3年ぶりの対面方式での開催となり、活発な徳島医学会学術集會が久しぶりに戻ってきました。コロナ禍で得られた知見を振り返りつつ、徳島での臨床・基礎医学の一層の発展に大きく寄与する有意義な学術集會となりました。本学術集會の開催にあたり、徳島県医師会、徳島医学会事務局、関係スタッフの皆様およびご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

(文責：微生物病原学分野 教授 野間口雅子、  
放射線医学分野 准教授 川中 崇)



## 第70回 徳島大学解剖体慰霊祭



令和5年10月13日(金)15時から徳島大学大塚講堂において、第70回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者約350人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体してくださった方々の亡き御霊6807柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

蔵本事務部医学部学務課

# 蔵本祭開催報告

## 蔵本祭 ～時には起こせよ movement～

第39回蔵本祭実行委員長 医学科4年次 有本 啓孝

第39回蔵本祭実行委員長を務めさせていただきました、徳島大学医学部医学科4年有本啓孝と申します。

感染症の社会的影響も弱まって、4年ぶりの一般公開となり飲食の露店解禁や芸能イベントの復活、学部展の復活が実現出来ました。アフターコロナという、時代の大きな転換点に存在

しているなど考えております。

本年度は例年と異なる運営方式、また異なる模擬店・ステージの位置を取りました。模擬店の位置については、大学祭後アンケートで模擬店に関する記載が最も多かったほど、かなりの好評を得ることができました。ステージ位置については、ステージの向きが動線に直面していなかったため、音が聞こえづらかったというご意見もあり、更なる検討が必要だという風に感じました。

蔵本祭当日は一般の方々も多く来場してくださり、「ずっと楽しみにしていた」という声もかけてくださった方もいました。恥ずかしながら、私は当日のその言葉を受けて初めて、蔵本祭は学生のためだけではなく地域の方を含めた全ての方のためにあるべきだと真に受け止めました。

来場者数も3000人を超え、大盛況に終えた蔵本祭。徳島大学のためにこのような形で貢献できたことを誇りに感じております。



## 栄養学展を終えて

第39回栄養学展委員長 医科栄養学科4年次 谷口 陸斗

栄養学展は、医科栄養学科の学生が、毎年一つのテーマを考える、テーマにあった展示をしたり料理を無料で提供したりする蔵本祭恒例のイベントです。

令和5年度の蔵本祭では「薬膳 稲荷寿司弁当」をテーマに、稲荷寿司、唐辛子と紫蘇を加えた棒棒鶏、クコの実を付け合わせたブロッコリーとハムのハーブサラダ、徳島県産のサツマイモを使用した甘煮をメニューとして、2日にわたり1日100食お弁当を提供しました。多種多様な効能を持つ材料を使い、普段の疲れや徐々に冷えてきた体を癒すことができるように試行錯誤しました。「非常にいろいろがきれいだった」、「初めての食材があり勉強になったうえに楽しめた」、「さすが栄養学科ですね!」という声をたくさんいただき、私達栄養学展委員も非

常に達成感を得ることができました。

両日、チケットの配布開始9時から10分～15分ですべて配り終わり、多くの方に足を運んでいただきました。

最後に、朝早くから栄養学展にご来場いただいた皆様、栄養学展委員と実行委員の方々、ご協力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。



## 解剖病理展を終えて

医学科4年次 黒田 翔

元々、疾患病理学教室へ配属された後病理学の勉強がてら始めたこの展示ですが、企画・構想・準備等少人数で行わなくてはならず、とても大変な半年間を過ごした事は記憶に新しく、強く印象に残っています。

今回の展示では、制度が変わり実際の臓器等の展示が困難になったことから、「病理標本や人体模型を用いた、初学者でも分かる、感覚・直感に基づいた展示」というテーマで行いました。

実際に諸先生方から人体模型や病理標本、顕微鏡をお借りして展示解説を行ったり、ポスターやスライドショーを用いたりして基礎説明などを行いました。扱った疾患・臓器は多岐にわたりますが、説明難易度や発生頻度などを加味して大腸腫瘍・糖尿病・脳梗塞などを重点的に行いました。

来場者は約400名の方々に来ていただき、アンケートにも「勉強になった」等の感想が多く、大変好評でした。



最後になりましたが、ご指導・ご協力いただいた諸先生方、手伝っていただいた解剖病理委員と実行委員の方々並びに来てくださった方々に心より御礼申し上げます。

# 留学体験記



## テキサス大学

医学科5年次 関根礼乃

2023年6月12日から8月4日までの8週間、アメリカのテキサス大学にて、短期研究実習に参加させていただきました。韓国人のボス、Dr. Nami McCarty先生のラボにお世話になり、ヒト疾患におけるミトコンドリアの機能と動態に関する研究に関わらせていただきました。細胞生存アッセイや電顕画像での細胞小器官の評価、PCR、電気泳動、共焦点顕微鏡での組織の評価などの実験手技を行ったほか、行っているテーマについての5分と15分のプレゼンをそれぞれ1回ずつ行いました。研究室の外では、6名の多国籍のルームメイトとルームシェアをしたほか、例年徳大生を歓迎してくださっている日本人の方々が観光に連れて行って下さいました。また、現地の日本人医師・研究者の先生方のご厚意で、テキサスメディカルセンター内の病院の見学や手術見学、「サイエン

スで遊ぼうの会」への参加など、様々な出会いに恵まれました。貴重な機会をくださった皆様に厚く御礼申し上げます。



## マレーシアマラッカ技術大学

医科栄養学科3年次 早川あさ美

私は2023年8月22日から10日間、マレーシアマラッカ技術大学 (UTeM) に留学させていただきました。留学中は日本人学生に加え、UTeMの学生とも寮生活や英語の授業、観光などを一緒に行いました。

英語の授業内では、UTeMの学生が先生の問いかけに積極的に反応し、プレゼンで堂々と意見を述べ、それに対して自発

的に質問するなど発言力の高さに驚きました。また、イスラム教を信仰する学生から話を聞いたりモスクに行ったりして、今まであまり意識することのなかった宗教に触れました。さらに、街の至る所に飾ってある国旗やマレーシアの独立記念日を祝うセレモニーで国歌を熱唱する人々を見て、マレーシアの愛国心を感じました。



10日間一緒に過ごしたUTeMの学生とは空港で別れるときに大号泣したほど、そして帰国後の現在でも連絡を取るほど絆を深めることができました。

このように異文化や多様な価値観を学び、視野を広げるきっかけになった貴重な機会を与え、支援して下さったすべての方々に厚く御礼申し上げます。

## メトロポリア応用科学大学

保健学科看護学専攻3年次 亀井萌花

今回のフィンランドへの留学は、私にとって初の海外生活でした。最初は、慣れない環境に不安を感じ、言いたいことが上手く伝わらない、また相手が言っていることを理解することができないことで心が折れそうになりました。しかし、現地の人々が親切にくださったおかげで、少しずつコミュニケーションを取ることに慣れ、海外での生活に馴染むことができました。

大学では、必死で英語を聞き取り、メモを取り、自分の意見を話すことで、一生懸命学びました。授業の中で議論が活発に行われており、学生が積極的に学ぶ姿勢が見られ、私も何か発言しようと、刺激を受けました。勇気をだして、わからないことを先生に英語で質問をすることができた時は、とても嬉しかったです。

この1ヶ月間、毎日が初めてなことばかりで、珍しいものを見たり、綺麗な景色を見たり、美味しいものを食べたり、とても充実していました。留学するにあ

たって、たくさんご指導して下さった先生方、私を応援し、笑顔で送り出してくれた家族、そして1ヶ月間助け合い、共に生活した仲間、感謝しています。この留学生活で学んだことを忘れず、これからも徳島大学で勉学に励みたいと思います。



## 第57回全日本医科学生総合体育大会

## 徳島大学医学部弓道部 団体戦優勝

医学部弓道部主将 医学科4年次 青野 大樹

10月28日・29日に秋田県の秋田県立武道館で開催された第57回全日本医科学生体育大会王座決定戦弓道部門にて、徳島大学医学部弓道部が団体戦優勝を飾ることができました。

西日本医科学生総合体育大会での成績上位4校と東日本医科学生総合体育大会での成績上位4校に加え、前回優勝校の名古屋大学さん、主管校の秋田大学さんの計10校で競いました。

今回の全日本医科学生体育大会王座決定戦は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2019年から4年ぶりの開催となりました。前回2019年の大会も出場しており、結果は団体戦第6位という悔しい結果でした。

団体戦は男女混合の6人で団体を組み、1立につき1人4射を引き、それを5立行います。そして合計120射での総的中数で競います。徳島大学は2年川島さん、3年中尾さん、3年森口さん、4年平野さん、5年西岡さん、6年藤山さんで団体を組みました（年次は大会時のものです）。

1立目は15中と良いスタートを切りました。ですが秋田大学さん、長崎大学さんがともに16中と全体では3位でした。その後長崎大学さん、慶応義塾大学さんと接戦を繰り広げ4立目が終了した時点で、徳島大学60中、慶応義塾大学さん60中、長崎大学さん56中となりました。各大学僅差となり、残す5立目の結果が勝敗を大きく左右することとなりました。大きなプレッシャーの中で徳島大学の6名の選手は全員が安定した射を行い、結果として準優勝の長崎大学さんと2中という僅差で優勝を勝ち取りました。選手たちの勇姿はその場にいた部員全員の心を打つものでした。

今大会での優勝は日頃より熱心にご指導くださる森師範、応援してくださった多くのOBの先生方、本校の先生方、そして関係者

の皆様のお力添えがあったからこそです。これからも部員一同、ますます精進してまいりますので、ぜひ応援のほどよろしくお願いたします。



## 退職者ご挨拶

生化学分野 教授 佐々木 卓也



私も40年以上前は医学部の学生でした。子供の頃は体が弱かったこともあって医者を目指したので、何の疑いもなく小児科に行くものと思って、学生時代にネルソンの教科書を買いました（と言ってもほとんど読みませんでした）。自分の中では小児科医として活躍する姿を描いていましたので医学部の基礎、臨床の全ての科目をそのための勉強と捉えていました（優等生では決してなかったけれど）。小児科医になれた時は嬉しくて、ずっと病院にいまし

た。そこで原因がわからず、治療もない疾患が思っていた以上に多いことを知り、基礎医学の道を選びました。医学部の学生さんには、常日頃の試験をクリアしたり、医師免許証を取得するのにあくせくするのではなく、自分なりの夢を持ってそこに向かって勉強や研究をしてください。最後に、2000年に教授として着任以来、多くの教員や事務の方、学生さん大変お世話になりました。ありがとうございます。



臨床腫瘍医学分野 教授 近藤 和也

令和6年3月31日をもちまして、臨床腫瘍医学分野の教授を定年退職いたしました。平成19年4月1日の着任以来、17年間、大変お世話になりました。徳島大学医学部を卒業後、第二外科（当時）に入局し、大学病院と関連病院で外科の研修を受けました。昭和63年4月から大学院に入り、国立がんセンター病理部に研修に行き、肺癌・胸腺腫の病理、胸部外科における腫瘍学的な考え、さらに分子生物学的解析を学びました。二外科に帰って、助手、講師として、手術、臨床研究、基礎研究に従事してきました。16名の博士号の研究の手伝いをさせていただきました。胸腺上皮性腫瘍の臨床病理学的研究、ヒトクロム酸塩に暴露した肺癌の生物学的研究、同所性移植肺癌モデルの確立などを研究しました。平成18年6月から徳島大学病院のがん診療連携センターの初代センター長をさせていただき、大学病院の各専門分野のシームレスな連携体制の構築に貢献させていただきました。保健学科に移ってから、看護学領域と医用検査学

領域に修士課程と博士課程を開講しました。12名の修士課程と9名の博士課程の大学院生と研究を行いました。留学生も10名いました（中国5名、ウイグル1名、モンゴル2名、エジプト2名）。また、修士課程に作られたがん看護専門看護師（雄西教授、今井教授）育成の手伝いもさせていただきました。平成25年から4年間、保健学科長をさせていただきました。“徳島大学のミッションの再定義（特徴や強み）”として、「高度医療人の養成」、「多職種交流による医療人の教育」、「保健学科のグローバル化」を掲げ、推進しました。高度医療人の養成として、がん看護専門看護師及び医学物理士の養成プログラムを構築しました。ロクシン教授（前フロリダアトランティック大学・教授）を迎え、保健学科の国際化を推進してきました。

今後は原点に戻り、医師として、地域医療に貢献しようと思っています。徳島大学医学部の益々の発展を祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。

新任教員ご挨拶



泌尿器科学分野 教授 古川 順也

令和5年11月1日付けで泌尿器科学分野教授を拝命いたしました。私は平成12年に神戸大学医学部を卒業後は同大学泌尿器科に入局し、市中病院の研修を経て大学院に進学し、膀胱癌に対する免疫治療に関する研究、さらに海外留学時には前立腺癌に対する新規標的治療に関する研究に従事しました。帰国後は泌尿器腫瘍学を専門分野とし、薬物治療やロボット支援手術を中心とした低侵襲手術に携わって参りました。これらの研究や臨床実績から得た知見

をもとに、患者様に最先端かつ個別化された医療を提供することに情熱を傾け、未来の泌尿器科医療を支える人間性豊かな医師の育成を目標とし、幅広い泌尿器科領域において先進的な医療技術の提供と心のこもった診療に努め、徳島県の泌尿器科医療の拠点として地域医療への貢献に尽力してまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



顕微解剖学分野 教授 寺井 健太

顕微解剖学分野教授に12月1日より着任いたしました寺井健太と申します。この場を借りてご挨拶させていただきます。私は、北海道大学医学部を卒業後に、大阪大学、米国バージニア大学、国立循環器病センター、東京大学、京都大学と研究・教育に従事してまいりました。この間、新しい観察方法を開発して生命科学を解き明かすことを行ってまいりました。観察方法の提案については皆様のお役に立て

るのではないかと考えております。これからの組織学は二次元の世界から、三次元や四次元に変遷しようとしています。これらに加え、機械学習の台頭や遺伝情報などが付随するようになってきました。徳島大学の学生には、従来の組織学はもちろんのこと、これらの変化に対応できるような素地を付けて頂けるように尽力する所存です。



地域・家庭医学分野 特任教授 八木 秀介

令和5年12月1日付けで新規開設講座である地域・家庭医学分野の特任教授を拝命いたしました。徳島県立海部病院に対する徳島県の寄附講座である総合診療医学分野の特任教授も併任しております。私は徳島県出身で、愛媛大学卒業後、徳島大学旧第一内科に入局し、内科学を広く学んだ後、国立循環器病研究センターにて、循環器内科の研修を受けました。その後、米国ロチェスター大学にて基礎研究に従事し、帰国後は、徳島大学病院・四国中央病院にて救急疾患から在宅診療を含む総合内科・診療の

研鑽を積んで参りました。症状から臓器横断的に全身を診ることを目標として、臓器別診療の専門分野と協力しながら総合診療を実践したいと存じます。また地域で求められている総合診療・家庭医療を実践しながら、患者さんに寄り添った全人的な治療を提供できる医療人の育成を卒前・卒後のシームレスな教育を通じて行っていく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 数字で見る医学部

～令和6年3月 卒業者の進路状況～

R6.3 現在

医 学 科	
進 路 先	合計
JCHO 大阪病院	1
相澤病院	1
医学研究所北野病院	2
愛媛県立中央病院	5
愛媛大学医学部附属病院	1
大阪警察病院	1
大阪府済生会千里病院	2
大手前病院	1
京都大学医学部附属病院	1
京都中部総合医療センター	1
京都府立医科大学附属病院	1
京都民医連中央病院	1
倉敷中央病院	3
甲南医療センター	2
神戸赤十字病院	1
神戸中央病院	2
神戸大学病院	2
国際医療福祉大学成田病院	1
国立病院機構京都医療センター	1
国立病院機構呉医療センター中国がんセンター	1
国立病院機構神戸医療センター	1
札幌東徳州会病院	1
滋賀県立総合病院	1
城山病院	1
新久喜総合病院	1
聖隷浜松病院	1
千葉大学医学部附属病院	2
東京歯科大学市川総合病院	1
東京慈恵会医科大学附属柏病院	1
徳島県鳴門病院	2
徳島県立中央病院	8
徳島赤十字病院	10
徳島大学病院	4
奈良県総合医療センター	1
新潟医療センター	1
日本鋼管病院	1
野崎徳州会病院	1
東戸塚記念病院	1
姫路聖マリア病院	2
兵庫医科大学病院	1
平塚市民病院	1
広島大学病院	1
福岡徳州会病院	1
藤田医科大学ばんだね病院	1
ベルランド病院	1
マツダ病院	1
三田市民病院	1
八尾市立病院	1
吉野川医療センター	1
和歌山県立医科大学附属病院	1
育和会記念病院	1
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	1
宮崎大学病院	1
広島西医療センター	2
江東病院	1
香川県立中央病院	1
高松市立みんなの病院	1
高知赤十字病院	1
国家公務員共済組合連合会 九段坂病院	1
済生会兵庫東病院	1
常滑市民病院	2
神戸市立医療センター西市民病院	2
神戸大学病院たすきがけコース	1
杉田玄白記念公立小浜病院	1
千船病院	1
大阪市立総合医療センター	1
大阪大学医学部附属病院	1
筑波メディカルセンター病院	1
鳥取大学病院	1
徳島市民病院	3
独立行政法人国立病院機構福山医療センター	1
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	1

八尾徳州会総合病院	1
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	2
豊岡病院	1
明石市立明石市民病院	1
明和病院	1
和臼病院	1
小 計	117
未定	5
小 計	5
合 計	122

医 科 栄 養 学 科	
進 路 先	合計
(医)百葉の会	1
岡山大学病院	1
株式会社 ファンデリー	1
株式会社 ドラックストアモリ	1
きたじま田岡病院	1
キング醸造株式会社	1
倉敷中央病院	1
国立大学法人 徳島大学	1
田岡病院	1
徳島赤十字病院	1
なにわ病院	1
東近江市役所	1
深谷赤十字病院	1
有限会社ファルマ	1
加賀市役所	1
株式会社 ANA ケータリングサービス	1
光武内科循環器科病院	1
社会福祉法人あかね	1
大阪北部ヤクルト販売株式会社	1
日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社	1
豊橋市役所	1
小 計	21
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院医科栄養学研究科博士前期課程	27
徳島大学大学院医学研究科修士課程	1
名古屋大学大学院医学系研究科	1
小 計	29
未定	4
小 計	4
合 計	54

保 健 学 科 : 看 護 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	13
徳島赤十字病院	4
徳島県	2
大阪公立大学医学部附属病院	2
明石市	1
アズパートナーズ	1
一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院	1
医療法人川崎病院	1
大阪医科薬科大学病院	1
大阪大学病院	1
岡山市	1
香川県	1
香川大学医学部附属病院	1
上板町役場	1
株式会社 MJPIRATES	1
関西労災病院	1
近畿大学病院	1
慶應義塾大学病院	1
神戸救済病院	1
神戸市医療センター西市民病院	1
神戸大学医学部附属病院	1
島根県立学校	1
島根県立中央病院	1
社会医療法人川島会川島病院	1
昭和大学病院	1
東京都江東区	1
東京都特別区	1
鳥取赤十字病院	1

虎の門病院	1
那覇市立病院	1
奈良市役所	1
西宮病院	1
兵庫医科大学病院	1
兵庫県立こども病院	1
広島県立広島市民病院	1
広島大学病院	1
福岡赤十字病院	1
美馬市役所	1
吉野川市	1
小 計	56
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	8
香川県立保健医療大学大学院	1
奈良県立医科大学大学院	1
小 計	10
未定	5
小 計	5
合 計	71

保 健 学 科 : 放 射 線 技 術 学 科 専 攻	
進 路 先	合計
松山赤十字病院	2
JA 厚生連阿南医療センター	1
医療法人徳州会 八尾徳州会総合病院	1
愛媛県	1
川島病院	1
北九州市立病院機構	1
倉敷中央病院	1
県立広島病院	1
徳島赤十字病院	1
長崎原爆病院	1
名古屋市立大学	1
兵庫県	1
広島市民病院	1
医誠会国際総合病院	1
一宮西病院	1
岡山済生会総合病院	1
社会医療法人愛仁会	1
順天堂大学医学部附属順天堂医院	1
聖路加国際病院	1
天理よろづ病院	1
兵庫医科大学病院	1
小 計	22
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院	10
小 計	10
未定	4
小 計	4
合 計	36

保 健 学 科 : 検 査 技 術 学 科 専 攻	
進 路 先	合計
医療法人社団 和光会 総合川崎臨港病院	1
香川県職員	1
公益財団法人 甲南会	1
社会医療法人 川島会 川島病院	1
社会医療法人 順江会 江藤病院	1
社会医療法人 仁友会 南松山病院	1
地方独立行政法人 徳島県鳴門病院	1
徳島県厚生農業協同組合連合会	1
徳島大学病院	1
独立行政法人 地域医療機能推進機構 けいりん病院	1
日本赤十字社 徳島赤十字病院	1
小 計	11
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院 医学系研究科	3
大阪大学大学院 医学研究科	1
小 計	4
未定	1
小 計	1
合 計	16

# 白衣授与・臨床実習生（医学）認定証授与式

医療教育学分野 教授 赤池 雅史



令和6年1月9日、診療参加型臨床実習を開始する医学科4年生を対象に、大塚講堂大ホールにて白衣授与・臨床実習生（医学）認定証授与式が行われました。第一部では西岡安彦医学部長、香美祥二病院長、荒瀬誠治青藍会会長からのご挨拶と榎本侑生さんの学生代表宣誓の後、学生ひとりずつに徳島大学病院のエンブレムが肩に刺繍された白衣と臨床実習生（医学）認定証が授与されました。この白衣は青藍会からのご寄贈によるものであり、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。第二部ではキャリア形成教育として、池田康将先生（薬理学分野教授）と滝沢宏光先生（胸部・内分泌・腫瘍外科学分野教授）のご講演が行われました。

医師法の一部改正により、現在の4年生からは、医師国家試験受験には大学において正規の課程を修め、厚生労働省令で定める共用試験に合格することが必要となり、共用試験に合格した医学生は臨床実習生（医学）として臨床実習において医師の指導監督の下に医行為を行うことが法律で認められました。徳島大学では今年度に113名の医学生が、臨床実習入門を含む所定の単位を修得し、共用試験であるCBT（コンピュータを用いて知識

を評価する試験）とOSCE（シミュレーションによる臨床能力試験）に合格しており、令和6年1月から学内外の医療機関で合計70週の診療参加型臨床実習を履修します。これらの対応は臨床実習における医学生の診療参加を促進し、卒前・卒後教育のシームレス化を目的としたものです。皆様の暖かいご支援とご指導をよろしくお願いいたします。



## ◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

### 令和5年度岡奨学賞

塩崎 雄治（応用栄養学分野 助教）  
「リン酸トランスポーター制御による血中リン濃度管理方法の探索」  
石田 快（微生物防除研究分野 特任助教）  
「Vibrio vulnificus 創傷感染モデルにおける特徴的な骨格筋内代謝変化の解析」  
※医学部および先端酵素学研究所において、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

### 令和5年度香川奨励賞

友成 哲（病院消化器内科 講師）  
「Multicenter retrospective study of initial treatment outcome and feasibility of initiating dose reduction of cabozantinib in unresectable hepatocellular carcinoma」  
原 倫世（血液・内分泌代謝内科学分野 助教）  
「Plasma Heparin Cofactor II Activity Is Inversely Associated with Hepatic Fibrosis of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus」  
※医学部および病院において、臨床研究における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

### 第51回徳島医学会賞

和田 佑馬（徳島大学病院 消化器・移植外科）  
「消化器癌における診断マーカーの臨床的有用性」  
影 治 照喜（徳島県立海部病院 脳神経外科）  
「過疎地域病院に対する専門医による5G遠隔診療～実証から実装へ～」  
※第267回徳島医学会学術集会（令和5年8月20日）において受賞者が選考されました。

### 第30回若手奨励賞

三宅 南帆（JA徳島厚生連阿南医療センター）  
「2型糖尿病患者における推定塩分摂取量に関わる臨床因子の探索」  
矢野 花佳（徳島大学病院卒後臨床研修センター）  
「関節リウマチに対する治療経過中に発症した肝類洞閉塞症候群の1例」  
※第267回徳島医学会学術集会（令和5年8月20日）において受賞者が選考されました。

### 医学部ベストティーチャー・オブ・ザ・イヤー2023

<b>医学科</b>	<b>医科栄養学科</b>
有持 秀喜 （生体防御医学分野 助教）	塩崎 雄治 （応用栄養学分野 助教）
尾矢 剛志 （分子病理学分野 准教授）	<b>保健学科</b>
玉村 禎宏 （顕微解剖学分野 助教）	片岡 佳子 （微生物・遺伝子解析学分野 教授）

※学生の投票に基づき選考される賞です。

### 医学部医学科ベストティーチャー・オブ・ザ・イヤー・イン・クリニカル・クラークシップ2023

<b>医学科</b>	北市 隆（心臓血管外科学分野 准教授）
	四宮 加容（眼科学分野 講師）
	峯田 あゆか（地域産婦人科診療部 特任講師）
	山口 浩司（循環器内科 講師）
	山中 千尋（眼科 助教）
	和田 佳三（クリニカルアナトミー教育・研究センター 特任准教授）

※学生の投票に基づき選考される賞です。

### 令和5年度医学部優秀教育賞

<b>医学優秀教育賞</b>	<b>栄養学優秀教育賞</b>
高須 千絵 （消化器・移植外科学分野 講師）	野村 和弘 （代謝栄養学分野 講師）
<b>保健学優秀教育賞</b>	
金澤 裕樹 （医用画像物理学分野 助教）	※医学科、医科栄養学科、保健学科の教育および学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

## ◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

## 令和5年度 中田賞



第70回医学科卒業生(令和6年3月卒業)  
宮本 賢三

この度は、中田賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。熱心にご指導いただいた先生方をはじめ、在学中にお世話になりました皆様に心より感謝申し上げます。温かく見守り支えてくれた家族や、苦楽を共にした友人たち、様々な方々のご支援を賜り、大変貴重な6年間を過ごすことができました。今回の受賞を励みとし、大学で学び培った経験や出会いを大切に、医師として社会に貢献できるよう今後も精進して参ります。

## 令和5年度 看護学専攻賞



第19回看護学専攻卒業生(令和6年3月卒業)  
福富 菜央

この度は、名誉ある看護学専攻賞をいただき大変光栄に存じます。この賞をいただくことができたのは、コロナ禍という大変な時期でも温かく丁寧に指導くださった先生方、共に切磋琢磨し支え合った友人、見守ってくれた家族のおかげです。心より感謝申し上げます。4年間で多くの貴重な経験を積むことができ、充実した大学生活を送ることができました。この賞を励みに、大学での学びや出会いを大切にしながら、社会に貢献できるよう精進してまいります。

## 令和5年度 検査技術科学専攻賞



第19回検査技術科学専攻卒業生(令和6年3月卒業)  
重清 咲良

この度は、名誉ある検査技術科学専攻賞をいただき大変光栄に思います。この賞をいただけたのは、親身にご指導してくださった先生方をはじめ、職員の皆様、共に支え励ましあった友人、温かく見守ってくれた家族のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。様々な経験や学びから大きく成長できた4年間でした。この受賞を励みに、今後も常に学び続ける姿勢を持ち、社会に貢献できるよう日々精進してまいります。

## 令和5年度 児玉賞



第7回医科栄養学科卒業生(令和6年3月卒業)  
濱田 侑希

この度は、名誉ある児玉賞をいただき、大変光栄に存じます。コロナ禍と共に始まった大学生活でしたが、あたたかくご指導くださった先生方をはじめ、様々な場面でアドバイスをくださった先輩方、励まし合った友人、そしていつも近くで見守ってくれた家族のおかげで、学びの多い豊かな4年間となりました。この場を借りて、感謝申し上げます。今後もこの賞を励みとし、周りの方々への感謝の気持ちを忘れず日々精進してまいります。

## 令和5年度 放射線技術科学専攻賞



第19回放射線技術科学専攻卒業生(令和6年3月卒業)  
丹生 庸太郎

この度は、名誉ある放射線技術科学専攻賞をいただき、大変嬉しく光栄に思います。ありがとうございます。懇切丁寧に指導いただきました先生方をはじめ、切磋琢磨し合った同期、そして支えてくれた家族のお陰であり、感謝の気持ちでいっぱいです。コロナ禍での大学生活のスタートでしたが、充実した4年間を過ごすことができました。徳島大学の卒業生であることを誇りに、また、この受賞を励みに、今後は診療放射線技師として日々精進してまいります。

## 令和5年度 医学部優秀学生賞

## 【学生】

医 学 科 6 年 次: 林 恒太郎  
医 学 科 4 年 次: 眞 邊 龍  
保健学科検査技術科学専攻4年次: 吉野 巧望  
保健学科放射線技術科学専攻4年次: 小野 祐基  
医科栄養学研究科博士前期課程1年: 丸山 祐昌

## 【学生団体】

医学部男子バレーボール部 (代表 鈴木 想生 外20名)  
第39回蔵本祭実行委員会 (代表 有本 啓孝 外45名)  
医学部硬式庭球部 (代表 地引 仁太 外33名)  
徳島市機能別消防団員 (代表 手塚 友愛 外7名)  
保健学科学生のための保健だより制作チーム (代表 伊藤 彩光 外9名)  
こども応援チームぽかぽか (代表 三好 愛夏 外2名)

※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。  
※年次は選考時のものです。



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。  
(令和2年3月24日)

## ●認証評価機関

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構

## ●認証期間 7年間

## 編集後記



本号では、西岡医学部長のベルツ賞受賞、医学部創立80周年記念式典等開催、全医体で医学部弓道部が優勝という大変喜ばしい記事を取りあげることができました。また、新しい特集として、全国レベルでの学会・学術集会の情報を掲載しました。特に、高山教授が日本消化器病学会総会を主宰されることを紹介しています。そのほか、医学部の様々な動きを紹介しています。時代はポストコロナへと移り、医学部も躍進のときを迎えつつあることが確認できます。このようなときに、残念ながら医学部を退職される2名の教授には、これまでのご尽力に感謝を申し上げます。退職、卒業、入学などありますが、医学部に所属の皆さんの活躍が医学部の躍進につながっていくと信じています。

(医学部広報委員会 副委員長 森岡久尚)

発行 徳島大学医学部

編集 医学部広報委員会

広報委員 橋本一郎(委員長)、安友康二、森岡久尚、高木康志、竹谷 豊、今井芳枝、福川美千代、岡久凜香、芝田千晶、舞鶴大貴

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係)E-mail: [isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp](mailto:isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp) までお願いします。  
なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9116 Fax: 088-633-9028 URL <https://www.tokushima-u.ac.jp/med/>

医学部ホームページはこちらから →

